

# 令和元年度第4回 豊島区政策評価委員会 次第

令和元年 11月7日（木）

午前 10時 00分 から

於：庁議室（庁舎 5階）

## 議 事

1. 外部評価での意見・指摘事項と対応方針（令和元年度）
2. 基本計画の改定に向けた意見（素案）
3. その他

---

## 【資料】

- 資料 1 外部評価での意見・指摘事項と対応方針（令和元年度）  
資料 2 基本計画の改定に向けた意見（素案）

## 【別紙】

- 別紙 1 平成 30 年度（令和元年度実施）施策評価表  
別紙 2 平成 30 年度事務事業評価の実施結果

## 外部評価での意見・指摘事項と対応方針（令和元年度）

## 1. 指標に関する意見・指摘事項

## 【指標の設定について】

No.	意見・指摘事項	委員会	対応方針
1	業務の成果を表した指標になっているかが重要である【外国人13】	第1回	<p>○施策評価の指標については、所管部局と協議しながら有効なデータを効率的に収集できる方法も含め、令和2年度の基本計画（後期）の見直しに合わせ検討を行う。</p> <p>○なお、事務事業評価は、令和元年度実施の評価から計画事業については3年かけて活動指標、成果指標の見直しを進めている。</p>
2	新しい方法や公民連携による取組みなどは民間では重視される評価基準であり、豊島区らしさという面で今後検討するのモいいのではないか【外国人13】	第1回	
3	事業内容とその効果を施策評価で議論したくなるが、コストの下げ幅や、住民の方々の同意を得られたか等の効率性の観点による指標を設定する方が、区民にわかりやすい【道路・橋梁13】	第2回	
4	インフラ分野は、かつては建設数と費用に対する交通量の効果をみていたが、現在は測定の難しいニーズ（例えば緊急車両がどれだけ早く到着できるようになったかなど）が増えてきている【道路・橋梁13】	第2回	
5	近年、博多駅前で大規模な陥没事故があった。事故の有無の実績指標ではなく、事故のリスクがどれくらい低いかを空洞化調査等で示した方が区民にわかりやすい【道路・橋梁13】	第2回	
6	次期計画も見据え、見合った施策に対応する指標を考えていく必要がある【道路・橋梁8、9】	第2回	

### 【指標のバランス】

No.	意見・指摘事項	委員会	対応方針
7	施策に掲げられている指標で目標をどれくらいカバーしているかの把握は難しい。特に、土木部門は、施策評価のほか、一つひとつの事務事業も異なる指標でみる必要があるのではないかと【道路・橋梁14】	第2回	○基本計画の見直しに合わせ、所管部局と協議し、指標の評価方法や重要度の基準、設定の手順等についてより明確にする方法を検討する。
8	本委員会は、施策が基本計画通りに進捗しているかを指標により確認する必要がある。次期の計画策定では、施策をカバーする目標と指標の設定ができるとうい【道路・橋梁14】	第2回	○また、それぞれの施策や、事務事業の指標が施策の目標をどの程度カバーできるか等の基準についても施策評価表へ反映する方法を基本計画の見直しに合わせ検討する。
9	指標重要度の割合は、質的に異なるものを補助指標に入れているので、今後検討したほうがよい【道路・橋梁16】	第2回	

### 【行政評価の必要性】

No.	意見・指摘事項	委員会	対応方針
10	インフラは多機能化してきており、区が何を目指し、道路整備するのかなどがわかると、評価しやすく、結果も区民にわかりやすくなるのではないかと【道路・橋梁8、9】	第2回	○基本計画の見直しに合わせ、施策の目指す方向性や位置づけをSDG'sの体系も参考にし、施策評価のあり方も併せて検討する。
11	事務事業評価の意義や活用方法を認識してもらいながら、評価を行う必要がある【外国人1】	第1回	○毎年開催する職員説明会において、行政評価の必要性と意義を伝えるとともに、評価シートの記載内容を適宜改正し、事業を有効に評価する仕組みを検討する。

**【施策評価の評価方法】**

No.	意見・指摘事項	委員会	対応方針
12	住民の満足度に絞り、評価をするのもよいのではないか【道路・橋梁13】	第2回	○令和2年度の基本計画の見直しにあわせて、施策の達成度を測る指標の再設定等の対応も施策ごとに検討していく。
13	最小の経費で効率的に遂行していることを明らかにすることを今後はより求められるのではないか【道路・橋梁13】	第2回	
14	設定された指標だけで達成状況を委員会で測ることは難しいので、後期の基本計画では指標設定の背景や目標値の設定根拠等もう少しわかりやすくしてはどうか【外国人14】	第3回	

**【基本計画の体系について】**

No.	意見・指摘事項	委員会	対応方針
15	各施策で具体的に実施することなどの指針的な部分は表現が難しい。基本計画策定当時は抽象的な議論になる。評価をする際は、施策の取組内容が明確になっていると評価もしやすくなる【外国人17】	第3回	○基本計画の見直しにあわせて、各施策の目指すべき方向性等を具体化するための対応を検討していく。

## 2. 個別の施策に関する意見・指摘事項

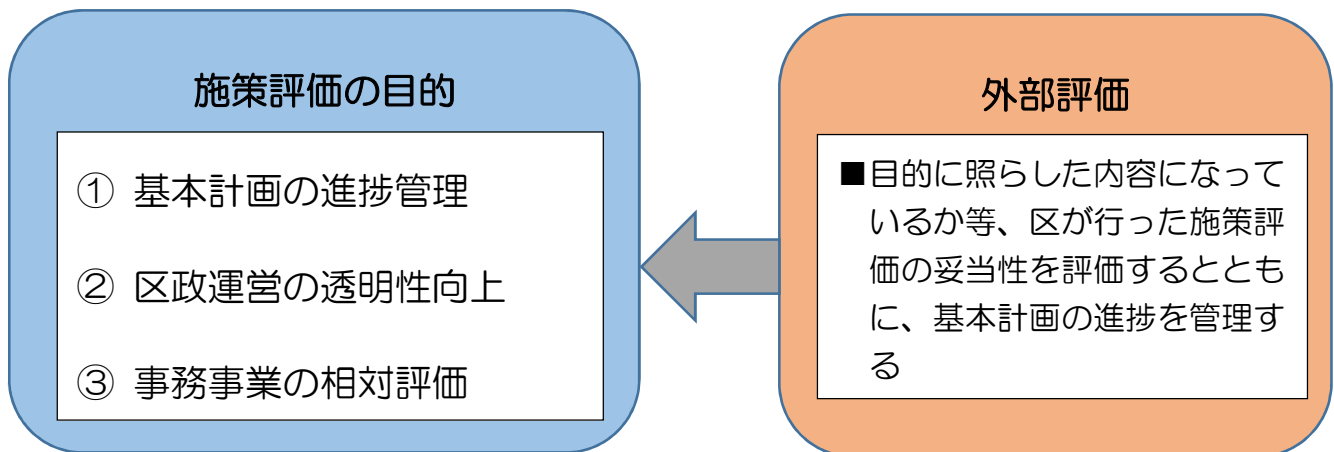
### 【インフラ整備施策について】

No.	意見・指摘事項	委員会	対応方針
1	計画道路の完成時、「長崎方面への出勤が1分以上短縮した」、「大型はしご車が通行できるようになった」と消防署の方に好評だった。成果の伝え方として、基本計画の中でインフラの整備がどれだけ、区民生活の支えになるのかなどわかりやすく記載できるとよい【道路・橋梁14】	第2回	○インフラ整備施策の指標の設定は、全体的な方向性も含めて見直しをしていけるように施策評価マニュアル等の改定を進める。
2	インフラ整備は、区民の方などが障害なく生活ができることが理想である。そのため、費用の議論は必ず出る。必要性・有効性を理解してもらうような取り組みも必要なのではないか。【道路・橋梁14】	第2回	
3	ヒートアイランド対策ならば、効果の中に気温の変化等を指標として示せるとよい。【道路・橋梁13】	第2回	

【多文化共生施策について】

No.	意見・指摘事項	委員会	対応方針
4	外国人の方の意見をきく場や機会をより多く設けたほうがいい。外国人目線のアンケートも必要ではないか【外国人13】	第3回	○多文化共生に関する施策の目指す方向性を具体化する。
5	区民の定義の中で外国人を整理し、外国人の方の意向を聞き取る必要があるのではないかと。何に困り、どういうことを要望するのか、そういう情報を共有化できるといい【外国人13】	第3回	
6	当初設定した目標を「大きく達成している」理由はもう少し踏み込んで考える必要がある。 実績を踏まえた評価なのか等の考察を行うことにより、変化の大きい領域の評価ができる【外国人14】	第3回	
7	多文化共生の施策の目標はいろいろある。外国人の方が住みやすい、地域住民の方と交流する、外国人の方が活躍する場があるというように、目指す目標により変わるので、今後の目指す方向性を見定め、評価と次期計画の見直しにつなげるといい【外国人17】	第3回	

## 基本計画の改定に向けた意見（素案）



## 1. 基本計画の改定に向けて

## (1) 基本計画（10年）および後期計画（5年）の期間

- 社会経済情勢の変化や計画策定後の法改正等により現状と合わない施策が散見される。

⇒基本計画の期間は10年の区が多いが、民間企業の中期経営計画は主に3-5年の期間で作成されるなど、社会情勢等を反映し改正している。豊島区も期間のありかたについて検討してもよいのではないかな。

## (2) まち・ひと・しごと創生総合戦略と基本計画との整合

- まち・ひと・しごと創生総合戦略のKPI（重要業績評価指標）はわかりやすい。まち・ひと・しごと創生総合戦略と基本計画の整理が望まれる。
- 基本計画の策定が目的になり、計画に沿った施策の評価の進捗管理が難しい。
- 区民のわかりやすさや、合理的な計画立案という視点で、重点的な施策を絞り、計画を策定するやり方もある。

⇒基本計画の見直しに合わせて、基本計画とまち・ひと・しごと創生総合戦略を統合するとともに、評価に連動させる方法を検討してもよいのではないかな。

## (3) 行政評価結果の予算への反映

- 施策評価や事務事業評価結果が予算に連動する仕組みの構築が必要。

⇒行政評価結果の予算編成へ連動させる仕組みを検討してもよいのではないかな。

## 2. 基本計画の改定に向けた個別の検討事項について

### (1) 部局横断的な施策について

■部局横断的な施策の評価は、指標の設定も含め評価が難しい。

⇒部局横断的な施策は、施策を構成する事務事業の再整理や役割分担の明確化、評価を見据えた指標の設定を検討してもよいのではないか。

### (2) 施策名と目標について

■施策名と目標から目指す方向性が分かりにくいものがある。

⇒「分かりやすさ」の観点から施策名の見直しを検討したほうがよい。

【例】みどりのネットワークの形成、良質な住宅ストックの形成 など

### (3) 「施策の目標」の明確化

■社会情勢の変化に伴い、施策の目指す方向性が複雑化しているものがある。それぞれの施策の目指す方向性について明確にする必要がある。

⇒基本計画の期間の問題と合わせて、施策の目的、目標をより具体的に記述する方策を検討したほうがよい。

【例】道路・橋梁の整備と維持保全、ワーク・ライフ・バランスの推進 など

### (4) 計画改定時に目標（指標）設定の見直し

■社会情勢等の変化により、指標の重点が変化しているものや、指標そのものを変える必要があるものがある。

⇒状況の変化に合わせた施策目標の見直しは検討すべきである。

【例】法改正等に伴う男女平等施策の推進、空き家活用の強化 など

### (5) 事務事業レベルの指標の設定

■事務事業レベルのアウトプット指標が設定されているものがある。

⇒基本計画の指標と補助指標の取扱いを見直し、施策レベルの指標（アウトカム）を検討し、必要に応じ補助指標を設定する。

### (6) 仕事の成果を表す指標の設定

■基本計画の見直しに合わせて、各施策の設定指標の見直しを行う。

⇒基本計画の見直しの際、「創造性」、「豊島区らしさ」、「効率性」、「住民の満足度」、「危険の未然予防」などの観点による指標の設定についてもあわせて検討してもよいのではないか。

### (7) 指標と補助指標の関係

■各施策の指標に、補助指標を設定する場合の基準や割合、設定の手順等について明確、かつ統一されるべきではないか。

⇒設定した指標や補助指標で施策の目標がどこまでカバーされたのか等を把握する方法を検討したほうがよい。



# 平成30年度(令和元年度実施) 施策評価表

別紙 1

1 施策No.	6-3-2		
2 地域づくりの方向	人間優先の基盤が整備された安全・安心のまち		
3 政策	魅力を支える交通環境づくり		
4 施策	道路・橋梁の整備と維持保全【重点】		
5 評価担当部	都市整備部		
6 施策関連課	土木管理課	道路整備課	公園緑地課
7 評価者	土木担当部長		

8 施策の目標	安全・快適で地域の価値を高める道路整備を進めています。 施設の長寿命化やライフサイクルコストの最小化、更新時期の平準化などにより、既存ストックの有効活用を進め、安全・安心な道路・橋梁のネットワークを構築していきます。						
9 施策の現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>道路は交通の動脈であるばかりでなく、緊急時の物資輸送、災害時の生活基盤を形成しています。</li> <li>都市計画道路の完成率は約65%(平成30年度末)で、現在事業中の路線は豊島区内道路の延長は、国道、都道、区道を合わせて約304kmあり、その約93%となる283.9kmは区道として豊島区が管理しています。</li> <li>都市計画道路など都市の基盤となる新たな道路づくりを効率的に進めることにより、地域の大切な資産となります。</li> <li>道路や橋梁の管理を対症療法型から予防保全型への転換により、事故防止とコスト削減を図り、既存ストックの有効活用を進めていく必要がある。</li> </ul>						
10 施策の実現に影響を及ぼす環境の変化(法改正、社会状況等)	<ul style="list-style-type: none"> <li>笹子トンネル天井崩落事故をきっかけとして、平成25年度に道路法が改正された。この改正により、道路・橋梁等については、平成26年度から5年に一度の近接目視点検が義務付けられた。</li> </ul>						
11 今年度の施策の取組方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>適正な道路の維持管理による事故防止を図る。</li> <li>橋梁や構造物の管理を事後保全型から予防保全型へと転換を図る。</li> </ul>						
12 投入コストの推移	費目	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	
	事業費合計(千円)	1,701,535	1,310,441	1,808,551	0	0	
	うち一般財源分(千円)	869,542	1,287,258	1,591,697	0	0	
13 施策の達成度を測る指標の推移	指標(1)	基本計画指標	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
	管理橋梁の健全度Ⅰ・Ⅱの割合	目標値	70	85	85	85	90
		実績値	85	85	85		
		達成率	121.4%	100.0%	100.0%	—	—
		達成状況	A:達成	A			
	指標重要度の割合(%)	50	指標設定理由				
	指標(2)	基本計画指標	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
		目標値	23,000	27,650			
		実績値	27,650				
		達成率	120.2%				
		達成状況	A:達成	A			
	指標重要度の割合(%)	50	指標設定理由	道路インフラを活用したヒートアイランド対策			
	平成30年度達成状況	98.1%	【達成状況分析】				
			<ul style="list-style-type: none"> <li>豊島区内の全橋梁の14橋中、12橋が健全度ⅠもしくはⅡが確保されており、計画的な補修と適正な維持管理が行われている。</li> <li>遮熱性舗装は、幹線道路を中心に施工を行い効率的に工事面積を増やしている。今後、幹線道路以外の生活道路路線の施工が中心になるので、効率的な施工を行うことが求められる。</li> </ul>				
14 施策達成状況	B:相当程度達成						
	【指標重要度の割合の設定理由】						
	<ul style="list-style-type: none"> <li>道路基盤としての重要性和、環境対策としての重要性を鑑み、双方とも同じ重要度とした。</li> </ul>						
15 施策を構成する事務事業評価を踏まえた分析	<ul style="list-style-type: none"> <li>予防保全型への維持管理が実現している。</li> <li>都市計画道路176号線、177号線、178号線の整備が完了している。</li> <li>遮熱性舗装を幹線道路に優先的に実施し、残りを生活道路に順次実施して道路緑化として行っている。</li> </ul>						
16 施策貢献度の考え方(設定の根拠・理由)	<ul style="list-style-type: none"> <li>都市生活の基礎的基盤である道路等を適正に維持するためには、正確な道路状況の把握による道路事故の予防と、効率的な保守管理によるライフサイクルコストの低減が必要である。また、ヒートアイランド対策などの環境に配慮した道路改良も求められており、いずれの事業も施策の達成に大きく貢献している。</li> </ul>						

●インフラは多機能化してきており、区が何を指し、道路整備するのかなどがわかると、評価しやすく、結果も区民にわかりやすくなるのではないかと  
●次期計画も見据え、見合った施策に対応する指標を考えていく必要がある

●住民の満足度に絞り、評価をするのもよいのではないかと  
●最小の経費で効率的に遂行していることを明らかにすることを今後はより求められるのではないかと  
●ヒートアイランド対策ならば、効果の中に気温の変化等を指標として示せるとよい。

●事業内容とその効果を施策評価で議論したくなるが、コストの下げ幅や、住民の方々の同意を得られたか等の効率性の観点による指標を設定する方が、区民にわかりやすい  
●インフラ分野は、かつては建設数と費用に対する交通量の効果のみをみていたが、現在は測定の難しいニーズ(例えば緊急車両がどれだけ早く到着できるようになったかなど)が増えてきている  
●近年、博多駅前で大規模な陥没事故があった。事故の有無の実績指標ではなく、事故のリスクがどれくらい低いかを空洞化調査等で示した方が区民にわかりやすい

●施策に掲げられている指標で目標をどれくらいカバーしているかの把握は難しい。特に、土木部門は、施策評価のほか、一つひとつの事務事業も異なる指標でみる必要があるのではないかと  
●本委員会は、施策が基本計画通りに進捗しているかを指標により確認する必要がある。次期の計画策定では、施策をカバーする目標と指標の設定ができること  
●計画道路の完成時、「長崎方面への出勤が1分以上短縮した」、「大型はしご車が通行できるようになった」と消防署の方に好評だった。成果の伝え方として、基本計画の中でインフラの整備がどれだけ、区民生活の支えになるのかなどわかりやすく記載できるとよい  
●インフラ整備は、区民の方などが障害なく生活ができることが理想である。そのため、費用の議論は必ず出る。必要性・有効性を理解してもらうような取り組みも必要なのではないかと

●指標重要度の割合は、質的に異なるものを補助指標に入れているので、今後検討したほうがよい

# 平成30年度(令和元年度実施) 施策評価表

別紙 1

17 来年度の方針 (課題解決策や改善策、 成果向上策について)	・路面下空洞調査の結果に基づき、補修計画を策定することで、予防保全型の保守管理体制を構築する。もって、経済的な道路管理を実現していく。
18 新規・拡充事業の 効果や必要性	

## 19 施策を構成する計画事業

事業整理番号	事業名	項目	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
1102-2	橋梁の点検調査及び整備	事業費合計(千円)	277,943	44,922	306,841		
		うち一般財源分(千円)	188,992	30,520	137,479		
		現状評価	A:良好	A:良好			
	事業特性1	維持管理事業	施策貢献度	★★★	★★★	★★	
事業特性2	区単独	今後の事業の方向性	A:現状維持	A:現状維持	一般事業(評価対象外)		
1102-01	区道の安全安心通行空間確保事業	事業費合計(千円)	698,633	797,945	846,870		
		うち一般財源分(千円)	104,331	797,945	846,870		
		現状評価	B:普通	B:普通			
	事業特性1	任意的事業	施策貢献度	★★	★★	★★	
事業特性2	国・都補助	今後の事業の方向性	A:現状維持	A:現状維持	A:現状維持		
1102-03	私道舗装助成	事業費合計(千円)	15,044	16,742	24,925		
		うち一般財源分(千円)	15,044	16,742	24,925		
		現状評価	A:良好	B:普通			
	事業特性1	任意的事業	施策貢献度	★	★	★	
事業特性2	区単独	今後の事業の方向性	A:現状維持	A:現状維持	A:現状維持		
1102-04	大塚駅周辺整備事業	事業費合計(千円)	13,175	228,935	78,497		
		うち一般財源分(千円)	13,175	228,935	78,497		
		現状評価	B:普通	B:普通			
	事業特性1	任意的事業	施策貢献度	★★	★★	★★	
事業特性2	区単独	今後の事業の方向性	A:現状維持	A:現状維持	一般事業(評価対象外)		
1102-05	池袋西口駅前広場モザイクチャーター設置事	事業費合計(千円)	10,644	11,867	12,639		
		うち一般財源分(千円)	10,644	11,867	12,639		
		現状評価	B:普通	B:普通			
	事業特性1	任意的事業	施策貢献度	★	★	★★	
事業特性2	区単独	今後の事業の方向性	A:現状維持	A:現状維持	一般事業(評価対象外)		
1102-06	区道の整備事業	事業費合計(千円)	291,357	139,207	152,633		
		うち一般財源分(千円)	256,765	139,207	152,633		
		現状評価	B:普通	B:普通			
	事業特性1	任意的事業	施策貢献度	★★	★★	★★	
事業特性2	国・都補助	今後の事業の方向性	A:現状維持	A:現状維持	一般事業(評価対象外)		
1102-07	庁舎跡地・新庁舎周辺道路整備事業	事業費合計(千円)	60,446	21,287	206,949		
		うち一般財源分(千円)	60,446	16,727	206,949		
		現状評価	B:普通	B:普通			
	事業特性1	任意的事業	施策貢献度	★★★	★★★	★★★	
事業特性2	国・都補助	今後の事業の方向性	A:現状維持	A:現状維持	A:現状維持		
1102-08	都市計画道路の整備事業	事業費合計(千円)	297,080	14,875	135,129		
		うち一般財源分(千円)	186,825	14,875	91,655		
		現状評価	B:普通	B:普通			
	事業特性1	任意的事業	施策貢献度	★★	★★	★★	
事業特性2	国・都補助	今後の事業の方向性	A:現状維持	A:現状維持	一般事業(評価対象外)		
1103-05	街路灯事業	事業費合計(千円)	326,640	401,227	402,929		
		うち一般財源分(千円)	6,115	7,147	122,465		
		現状評価	B:普通	B:普通			
	事業特性1	任意的事業	施策貢献度	★★	★★	★★	
事業特性2	国・都補助	今後の事業の方向性	A:現状維持	A:現状維持	一般事業(評価対象外)		

## 20 施策を構成する一般事業

事業整理番号	事業名	項目	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
1101-03	道路占用事務	事業費合計(千円)	33,843	31,291	38,018		
		うち一般財源分(千円)	29,950	27,070	34,000		
		現状評価	B:普通	B:普通			
	事業特性1	任意的事業	施策貢献度	★★★	★★★	★★★	
事業特性2	区単独	今後の事業の方向性	一般事業(評価対象外)	一般事業(評価対象外)	一般事業(評価対象外)		
1101-04	屋外広告物の許可事務	事業費合計(千円)	3,370	3,370	6,050		
		うち一般財源分(千円)	3,370	3,370	6,050		
		現状評価	B:普通	B:普通			
	事業特性1	任意的事業	施策貢献度	★	★	★	
事業特性2	区単独	今後の事業の方向性	A:現状維持	A:現状維持	一般事業(評価対象外)		

# 平成30年度(令和元年度実施) 施策評価表

別紙 1

1 施策No.	2-1-2		
2 地域づくりの方向	多様性を尊重し合えるまち		
3 政策	多文化共生の推進		
4 施策	外国人住民とのコミュニティの形成・促進		
5 評価担当部	政策経営部		
6 施策関連課	広報課	区民相談課	(税務課)
7 評価者	政策経営部長		

●事務事業評価の意義や活用方法を認識してもらいながら、評価を行う必要がある

8 施策の目標	国籍や人種などを問わず、共に暮らす区民として、地域コミュニティを創っていくための環境を整備します。		
9 施策の現状と課題	外国人登録者数が人口の10.4%(平成31年1月1日現在)を占め、30,223人の外国人住民が暮らしており、20歳代、留学生及び単身世帯の外国人住民が多い。外国人住民の増加により身近な国際化が進行する一方、ごみの出し方、子育て、教育、住居の住まい方、地域コミュニティへの参加、防災、災害時の対応等、言葉や生活習慣の違いから生じる様々な問題への対応に苦慮している地域もある。		
10 施策の実現に影響を及ぼす環境の変化(法改正、社会状況等)	平成18年に総務省は「地域における多文化共生推進プラン」を策定、平成本台帳登録法及び高度人材に対するポイント制による出入国管理上の優待され、受け入れた外国人との共生社会の実現に貢献していくことや安全対応を強化していくこと等が示された。平成31年4月には、改正入管法が施行され、出入国在留管理庁が設置された。		
11 今年度の施策の取組方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>○多文化共生に関する継続的な研究・検討</li> <li>○庁内実施事業に関する課題整理と今後の取組検討</li> <li>○職員への多文化共生に関する周知・啓発</li> </ul>		

●外国人の方の意見をきく場や機会をより多く設けたほうがいい。外国人目録のアンケートも必要ではないか

●区民の定義の中で外国人を整理し、外国人の方の意向を聞き取る必要があるのではないかと。何に困り、どういことを要望するのか、そういう情報を共有化できるといい

12 投入コストの推移	費目		平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
	事業費合計(千円)			60,770	60,703	65,551	0
うち一般財源分(千円)			58,718	58,560	61,025	0	0

13 施策の達成度を測る指標の推移	指標(1)	基本計画指標		平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
		「地域で外国人と交流がある」について、肯定的な回答をする区民の割合	目標値	実績値	6.8	7.1	7.4	7.7
		達成率	152.9%	190.1%	175.7%	—	—	
		達成状況	S:目標超過達成	S:目標超過達成	S:目標超過達成			

13 施策の達成度を測る指標の推移	指標(2)			平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
		指標重要度の割合(%)	100	指標設定理由	地域において日本人と外国人がどの程度交流しているのかを示す指標であるため			
		目標値						
		実績値						
		達成率						
		達成状況						
		指標重要度の割合(%)						

●業務の成果を表した指標になっているかが重要である  
●新しい方法や公民連携による取組みなどは民間では重視される評価基準であり、豊島区らしさという面で今後検討するのでもいいのではないかと

14 施策達成状況	平成30年度達成状況	175.7%	【達成状況分析】
	S:目標超過達成		平成30年度の実績は、基本計画後期目標10.0%を上回っている。アンケートによる意識の指標であることから下振れの可能性もあるが、より高い数値が得られるよう努める必要がある。
			【指標重要度の割合の設定理由】

●当初設定した目標を「大きく達成している」理由はもう少し踏み込んで考える必要がある。実績を踏まえた評価なのか等の考察を行うことにより、変化の大きい領域の評価ができる

●設定された指標だけで達成状況を委員会で測ることは難しいので、後期の基本計画では指標設定の背景や目標値の設定根拠等もう少しわかりやすくしてはどうか

15 施策を構成する事務事業評価を踏まえた分析	<p>管する「多文化共生推進事業」、区民相談課が所管する「区民相談事業」、「テレビ電話による多言語通訳サービス委託事業」及び広報課が所管する「豊島区ホームページ制作(外国人のための生活ページ)」である。区民相談事業は、区民相談コーナーでの英語・中国語通訳を活用した相談対応、テレビ電話による多言語通訳サービス委託事業は、タブレットを介した有人通訳対応、豊島区ホームページ制作は多言語による生活習慣の提供で、基本計画の主な取組内容である「外国人住民への情報発信及び相談支援」に該当する。多文化共生推進事業は、主な取組内容のもう一つの「外国人住民との交流支援」に該当する。</p>
16 施策貢献度の考え方(設定の根拠・理由)	外国人登録者数の増加など現状を踏まえると外国人住民等への情報提供・相談支援の充実は、施策を展開するための基盤となるものであることから、「豊島区ホームページ制作(外国人のための生活情報ページ)」の貢献度は★★★とする。

17 来年度の方針(課題解決策や改善策、成果向上策について)	<p>基本計画で政策として位置付けられている「多文化共生の推進」と、的かつ総合的な取組は行われてこなかった。29年度より専管組織で研究・検討を深め、基本的な考え方を整理して基本方針を策定したを図りたい。</p>
--------------------------------	---

●各施策で具体的に実施することなどの指針的な部分は表現が難しい。基本計画策定当時は抽象的な議論になる。評価をする際は、施策の取組内容が明確になっていると評価もしやすくなる

●多文化共生の施策の目標はいろいろある。外国人の方が住み

# 平成30年度(令和元年度実施) 施策評価表

別紙 1

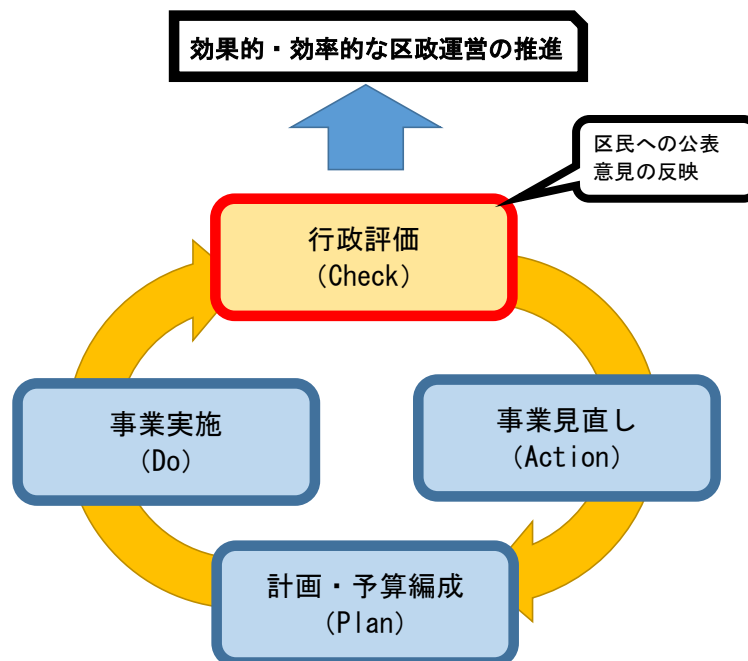
18 新規・拡充事業の効果や必要性		上記の多文化共生に関する研究・検討により、新規・拡充事業の必		やすい、地域住民の方と交流する、外国人の方が活躍する場があるというように、目指す目標により変わるので、今後の目指す方向性を見定め、評価と次期計画の見直しにつなげるといい				
19 施策を構成する計画事業								
事業整理番号	事業名	項目	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	
0101-01	多文化共生推進事業	事業費合計(千円)		7,331	7,662			
		うち一般財源分(千円)		7,331	4,662			
		現状評価		B:普通				
		施策貢献度		—(再掲分)	—(再掲分)			
事業特性1	任意的事業							
事業特性2	区単独	今後の事業の方向性	A:現状維持		一般事業(評価対象外)			
0106-01	区民相談事業	事業費合計(千円)	30,297	25,214	23,312			
		うち一般財源分(千円)	28,653	24,809	23,082			
		現状評価	A:良好		A:良好			
		施策貢献度	—(再掲分)	—(再掲分)	—(再掲分)			
事業特性1	任意的事業							
事業特性2	国・都補助	今後の事業の方向性	A:現状維持		A:現状維持	A:現状維持		
0105-03	豊島区ホームページ制作 (外国人のための生活情報ページ)	事業費合計(千円)	30,473	28,158	31,819			
		うち一般財源分(千円)	30,065	26,420	30,523			
		現状評価	A:良好		A:良好			
		施策貢献度	★★★	★★★	★★★			
事業特性1	任意的事業							
事業特性2	区単独	今後の事業の方向性	A:現状維持		A:現状維持	一般事業(評価対象外)		
0404-11	テレビ電話による多言語通訳サービス委託事業	事業費合計(千円)			2,758			
		うち一般財源分(千円)			2,758			
		現状評価						
		施策貢献度			★★			
事業特性1	任意的事業							
事業特性2	区単独	今後の事業の方向性			一般事業(評価対象外)			

# 平成30年度事務事業評価の実施結果

## 1 行政評価の目的

計画や予算を立て（Plan）、事業を実施し（Do）、その行政活動に対する評価（Check）にもとづいて改善・見直し（Action）を行い、新たな計画や予算に反映をしていく「PDCAサイクル」を循環することで、効果・効率的で成果重視の行政運営を推進する。

「豊島区自治の推進に関する基本条例」において、行政評価の実施と区民への公表を規定している。



## 2 事務事業評価対象事業、特徴

### (1) 評価対象事業

625事業（内部管理的業務などの一部を除く全事務事業）

### (2) 評価の主な特徴

新基本計画の進捗管理等を目的とした「施策評価」と、従来の「事務事業評価」を組み合わせ、二階層による行政評価を実施した。

平成30年度の事務事業評価は、区民に分かりやすくかつ評価の質の向上を図るため、総合評価を行う対象事業を絞り、実施した。

### 3 事務事業評価表の種類と評価対象事業数

評価表	特 徴	30年度		29年度	
		評価対象事業	事業数	評価対象事業	事業数
A表 (詳細版)	指標の整理、総合評価、 適正性の観点等様々な 観点から評価を行う。	■計画事業の1/3	127	■計画事業 ■一般事業の1/3	432
B表 (簡易版)	現状設定している指標 や事業費の推移を継続 評価する。	■計画事業の2/3 ■一般事業	478	■一般事業の2/3	198
C表 (公会計 分析付)	A表の視点のほか、公 会計分析も加える。	■政策経営部選定 事業(29年度と同 一事業)	20	■政策経営部選定事 業(公会計ストック 情報等がある事業 (各部2事業程度))	20 (※)

※29年度のC表事業数は、財政課が実施した「事業別実績シート」の数

### 4 評価結果

今後の方向性についての評価(総合評価)【A表+C表】

評価結果	30年度		29年度(参考)		28年度(参考)	
	事業数	割合	事業数	割合	事業数	割合
S:拡充	6	4.1%	6	1.4%	18	4.2%
A:現状維持	79	53.7%	202	46.8%	206	48.5%
A':改善・継続	45	30.6%	107	24.8%	127	29.9%
B:改善・見直し	9	6.1%	92	21.3%	67	15.8%
C:縮小	1	0.7%	8	1.9%	5	1.2%
D:終了	7	4.8%	17	3.9%	2	0.5%
合計	147	100.0%	432	100.0%	425	100.0%

※今後の方向性について評価は、A表(詳細版)およびC表(公会計分析付)で実施

※A'の評価は、29年度以前の評価では「現状維持(経過観察)」になっている

### 5 今後のスケジュール

施策評価(2施策)は、9月に外部評価(政策評価委員会で実施)を行い、意見等の整理を行ったうえで、12月に評価を確定する。

		9月			10月			11月			12月		
事務事業 評価	事務事業 評価 確定												
	施策評価	外部評価			外部評価の整理			施策評価 確定					

個別の評価結果は、区ホームページに掲載するほか、行政情報コーナー、中央図書館、各地域図書館で閲覧に供します。

また、評価結果の概要は広報としまにより、区民のみなさまにお知らせいたします。